第３学年 単元別学習内容一覧

上巻

◎　わくわく算数学習

目　　標	指導時数・時期
○　100 を単位とする数の加法・減法について，図，式，ことばなどを関連づけて考えたり筋道立てて説明しあったりすることを通して相対的な見方にもとづく加法・減法についての理解を深めるとともに，学びを深めあう算数学習の進め方のよさに気づき今後の学習にいかそうとする態度を養う。	1 時間 2 学期制：4 月上旬 3 学期制：4 月上旬
評　　価	
(知)　・算数学習を進める手順や，ことばや図や式などを用いて考え，説明する仕方を知る。また，話し合いのよさなどを理解し，それらに必要な事柄を取り上げることができる。 (思)　・ことばや図などを適切に用いてわかりやすく説明することができる。 (態)　・学習の進め方に関心をもち，話し合い活動や発表に進んで取り組もうとする。学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り，これからの学習にいかそうとする。	

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	1	6～9	○100 を単位にした(何百)＋(何百)や(千何百)－(何百)の計算の仕方を考える学習を通して，自分で考えるときの方法や説明の仕方，話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え，みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。	・数の相対的な見方による 100 を単位にした何百のたし算・ひき算 ・学習の進め方，ノートのかき方	(思判表) (何百)＋(何百)の計算の仕方を考えたり，ことばや図などを用いてわかりやすく順序立てて説明したりしている。《発言・観察》 (知技) 100 を単位にした加減計算ができる。《観察・ノート》 (態度)学習を進める手順や話し合いの仕方などを知り，これからの学習にいかそうとする。《ノート》

1　九九の表とかけ算

目　　標	指導時数・時期
○　10 や 0 のかけ算について，その意味や計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して，かけ算の理解を深めるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	5 時間 2 学期制：4 月上旬～4 月中旬 3 学期制：4 月上旬～4 月中旬
評　　価	
(知)　・10 のかけ算，0 のかけ算の意味を理解でき，その計算ができる。 (思)　・かけ算のきまりを用いて，10 や 0 のかけ算の仕組みなどを考えることができる。 (態)　・九九の表からきまりをみつけ，それを進んで計算に用いようとする。	

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	134	○既習事項の理解を確かめる。	・2 年「九九のきまり」	
(課題設定)	1	10 11	○九九の表を使った数あてゲームを通して，単元の課題をつかむ。 ○かくれた数のみつけ方を説明する活動を通して，かけ算のきまりを見いだしまとめる。	・九九の表の数あてゲームによるかけ算のきまりをみつけることの動機づけ ・乗数が 1 ずつ増減するときの積の変わり方	(態度)かくれた数のみつけ方をいろいろに考えようとしている。《観察・発言》 (思判表)九九の表のきまりに着目して，かくれた数のみつけ方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
	2	12	○かけ算の意味やきまりに着目して，(1 位数)×10 や 10×(1 位数)の答えを求めることができる。	・10 のかけ算	(思判表)3×10 や 10×3 の答えの求め方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)10 のかけ算の答えを求めることができる。《ノート》
	3	13	○かけ算の意味やきまりに着目して，(1 位数)×0 や 0×(1 位数)の答えを求めることができる。	・0 のかけ算	(思判表)5×0 や 0×2 の答えの求め方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)0 のかけ算の答えを求めることができる。《ノート》
	4	14～15	○かけ算のきまりを使って，□を使って表された，かける数やかけられる数を求めることができる。	・a×□＝b，□×a＝b の□にあてはまる数をみつけること（わり算の素地）	(態度)かけ算のきまりを使って，6×□＝24 や□×7＝21 の□にあてはまる数をみつけようとしている。《観察》 (知技)a×□＝b や□×a＝b の□にあてはまる数をみつけることができる。《観察・ノート》
学びのまとめ	5	16～18	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

2　わり算

目　　標	指導時数・時期
○　わり算について，その計算の意味や仕方を考えたり説明したりすることを通して，わり算の意味やよさを理解するとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	10 時間 2 学期制：4 月中旬～5 月上旬 3 学期制：4 月中旬～5 月上旬
評　　価	

(知) ・等分除や包含除の意味を理解し，除法の適用場面を式に表して，九九を用いて答えを求めることができる。
・答えが九九にないわり算の答えを求めることができる。
(思) ・わり算の計算の仕方を考え，説明することができる。
(態) ・同じ数ずつに分ける計算のよさに気づき，わり算を日常生活上の問題の処理に役立てようとする。

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	134	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「九九の表とかけ算」	
(課題設定)	1	20	○数図ブロックを3等分する操作を通して，等分除の意味を理解し，除法の式に表すことができる。 ○わり算について調べていくという単元の課題をつかむ。	・同じ数ずつに分けることによるわり算の動機づけ ・わり算(等分除)の意味と式 《÷，わり算》	(態度)等しく分ける分け方に関心をもち，同じ数ずつに分けようとしている。《発言・観察》 (知技)等分除の意味や式について理解し，等分したときの1人分の数を式に表すことができる。《観察・ノート》
①分け方とわり算		21～22			
	2	23	○わり算がかけ算の逆演算であることをもとに，等分除の答えをかけ算九九を使って求めることができる。	・等分除の求答	(思判表)等分除の答えの求め方を，かけ算九九を使って考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)等分除の問題をわり算の式に表して答えを求めることができる。《ノート》
	3	24～25	○数図ブロックを3こずつに分ける操作を通して，包含除の意味を理解し，包含除の場合も除法の式に表して答えを求めることができる。	・わり算(包含除)の意味と式 ・包含除の求答	(知技)包含除の意味について理解し，わり算の式に表して答えを求めることができる。《観察・ノート》
	4	26	○等分除と包含除を統合的にとらえ，どちらもわり算の式に表して九九を使って答えを求めればよいことを理解できる。	・等分除と包含除の統合的理解（□×3＝15，3×□＝15） 《わられる数，わる数》	(思判表)等分除と包含除をわり算として統合的にとらえている。《発言・観察》
	5	27	○問題づくりを通して，わり算の理解を深める。	・わり算の問題づくり	(態度)わり算になる場面を正しく判断して，意欲的にわり算になる問題をつくって交流しようとしている。《観察》
●練習	6	28	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
②わり算を使った問題	7	29	○問題の中のわり算の意味に着目し，わり算を含む3要素2段階の問題を解く。	・除法と加法，減法の組み合わさった問題	(思判表)順序よく考えて，除法と加法や減法を組み合わせて問題を解決している。《発言・ノート》
③答えが九九にないわり算	8	30	○何十や0をわる，答えが九九にないわり算の計算の仕方を，わり算がかけ算の逆演算であることをもとに考え説明することができる。	・(何十)÷(1位数)＝10のわり算 ・被除数が0のわり算	(思判表)被除数が何十や0で答えが九九にないわり算の答えの求め方を考えたり，説明したりしている。《観察・発言》 (知技)答えが10や0のわり算ができる。《ノート》
	9	31	○(2位数)÷(1位数)＝(2位数)の計算の仕方を，数の相対的な見方を活用して考え説明することができる。	・(2位数)÷(1位数)＝(2位数)のわり算	(思判表)数の相対的な見方を働かせて，答えが九九にないわり算の答えの求め方を考えたり，説明したりしている。《観察・発言》 (知技)答えが2位数になるわり算ができる。《ノート》
学びのまとめ	10	32～33	○学習内容の自己評価	・評価とふりかえり，活用問題	

思　図を使って考えよう

目　標

○　文章題において，問題場面を線分図に表して解法を考えることを通して，順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の問題を解くことができるようにするとともに，用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。

指導時数・時期

2時間
2学期制：5月中旬
3学期制：5月中旬

評　価

(知) ・線分図による数量の関係の表し方がわかり，順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の問題を解くことができる。
(思) ・順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の問題の解決の方法が説明できる。
(態) ・図を使って意欲的に問題解決にあたろうとする。

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
	1	34～35	○数量の関係を図に表して，減減の場面のはじめの数を求めることができる。	・3要素2段階の逆思考の問題（□－a－b＝c）	(知技)数量の関係を線分図に表すことができる。《観察・ノート》 (思判表)線分図をもとに，減減の場面のはじめの数の求め方を考えている。《発言・観察》
	2	36～37	○数量の関係を図に表して，増増の場面のはじめの数を求めることができる。	・3要素2段階の逆思考の問題（a＋b＋□＝c）	(態度)数量の関係を線分図に表して考えようとしている。《観察》 (思判表)線分図をもとに，増増の場面のはじめの数の求め方を考えている。《発言・観察》

3　たし算とひき算の筆算

目　標	指導時数・時期
○　(3 位数)±(3 位数)，簡単な(4 位数)±(4 位数)の筆算について，その仕方を考えたり説明したりすることを通して，繰り上がりや繰り下がりに気をつけて正しく筆算で計算できるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	9 時間 2 学期制：5 月中旬～5 月下旬 3 学期制：5 月中旬～5 月下旬
評　価	
(知)　・繰り上がりや繰り下がりの処理を通して，十進位取り記数法の理解を深め，(3 位数)±(3 位数)や簡単な(4 位数)±(4 位数)の筆算を，繰り上がりや繰り下がりに気をつけて正しく筆算で計算することができる。 (思)　・既習の 2 位数の計算の仕方をもとに，(3，4 位数)±(3，4 位数)の筆算の仕方を考えることができる。 (態)　・筆算のよさがわかり，進んで活用しようとする。	

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	134	○既習事項の理解を確かめる。	・2 年「たし算とひき算のひっ算」	
(課題設定) ①たし算の筆算	1	38 39	○既習の 2 位数の筆算の仕方をもとに，3 位数の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(3 位数)＋(3 位数)で繰り上がりが 1 回の筆算ができる。	・既習のふりかえりと 3 桁のたし算（ひき算）の筆算の動機づけ ・(3 位数)＋(3 位数)で，一の位が繰り上がる筆算	(態度)既習の筆算の仕方をもとに，3 位数のたし算の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)(3 位数)＋(3 位数)で一の位が繰り上がる筆算ができる。《ノート》
	2	40	○(3 位数)＋(3 位数)で繰り上がりが 2 回の筆算ができる。	・(3 位数)＋(3 位数)で，一の位と十の位が繰り上がる筆算	(思判表) 既習の筆算の仕方をもとに，2 回繰り上がる筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)(3 位数)＋(3 位数)で 2 回繰り上がる筆算ができる。《ノート》
	3	41	○(3 位数)＋(3 位数)で和が 4 桁になる筆算ができる。	・(3 位数)＋(3 位数)で，百の位が繰り上がる筆算	(思判表) 既習の筆算の仕方をもとに，(3 位数)＋(3 位数)で和が 4 桁になる筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)(3 位数)＋(3 位数)で和が 4 桁になる筆算ができる。《ノート》
②ひき算の筆算	4	42～43	○(3 位数)－(3 位数)で繰り下がりが 1 回の筆算ができる。	・(3 位数)－(3 位数)で，百の位から繰り下げる筆算	(態度)既習の筆算の仕方をもとに，3 位数のひき算の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)(3 位数)－(3 位数)で，百の位から繰り下げる筆算ができる。《ノート》
	5	44	○(3 位数)－(3 位数)で繰り下がりが 2 回の筆算ができる。	・(3 位数)－(3 位数)で，十の位と百の位から繰り下げる筆算	(思判表)既習の筆算の仕方をもとに，2 回繰り下がる筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)(3 位数)－(3 位数)で 2 回繰り下がる筆算ができる。《ノート》
	6	45	○(3 位数)－(3 位数)で，繰り下がりが上位 2 桁に及ぶ筆算ができる。	・(3 位数)－(3 位数)で，繰り下がりが 2 桁に及ぶ筆算	(思判表)既習の筆算の仕方をもとに，繰り下がりが 2 桁に及ぶ筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)(3 位数)－(3 位数)で繰り下がりが 2 桁に及ぶ筆算ができる。《ノート》
●練習	7	46	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③4 けたの数の筆算	8	47	○3 位数の筆算の仕方をもとにして，(4 位数)±(4 位数)の筆算の仕方を考えることができる。	・簡単な(4 位数)±(4 位数)の筆算	(態度) 既習の筆算の仕方をもとに，4 位数の加減の筆算の仕方を考えようとしている。《発言・観察》
学びのまとめ	9	48～49	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

＊　ふく習

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	50～51	○既習事項の確認と持続	・復習	

4　時こくと時間

目　標	指導時数・時期
○　時刻と時間について，秒の意味を理解し，いろいろな時間や時刻の求め方を考えたり説明したりすることを通して，時刻と時間についての理解を深めるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	4 時間 2 学期制：5 月下旬～6 月上旬 3 学期制：5 月下旬～6 月上旬
評　価	
(知)　・時刻や時間の求め方や秒について理解し，必要な時刻や時間を計算によって求めたり，秒の単位を用いて測定したりすることができる。 (思)　・時間の仕組みをもとに，時刻や時間の計算の仕方を考える。 (態)　・時刻や時間の計算のよさや秒に関心をもち，進んで身のまわりの時間の計算をしようとする。	

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	135	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「時こくと時間」	
(課題設定)	1	52 53	○町探検の計画をたてる話しあいを通して，単元の課題をつかむ。 ○ちょうどの時刻や正午の区切りに着目し，何分か後の時刻や時間を求めることができる。	・時刻と時間の学習の動機づけ ・一定時間後の時刻の求め方，時刻と時刻の間の時間の求め方	(態度)時計の模型を操作して，意欲的に時刻や時間の求め方を考えようとしている。《観察》 (思判表)ちょうどの時刻をまたぐ何分か後の時刻や時間の求め方を考えたり，説明したりしている。《観察・発言》
	2	54	○ちょうどの時刻の区切りに着目し，何分か前の時刻を求めることができる。 ○1時間＝60分を用いて，時間と分を言い換えることができる。	・一定時間前の時刻の求め方 ・時間と分の単位換算	(思判表)ちょうどの時刻をまたぐ何分か前の時刻の求め方を考えたり，説明したりしている。《観察・発言》 (知技)1時間＝60分を使って，何時間何分を何分になおすことができる。《発言・ノート》
	3	55	○1分よりも短い時間の単位「秒」について理解し，秒で表される時間について調べる。	・秒の定義，「分」と「秒」の関係（1分＝60秒）《秒》	(態度)短い時間を計ったり体感したりする活動に意欲的に取り組んでいる。《観察》 (知技)1分は60秒であることを理解し，分と秒の言い換えができる。《発言・ノート》
学びのまとめ	4	56～57	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

5　一万をこえる数

目　　標

○　一万をこえる数について，既習の数の表し方にもとづいてその仕組みを考えたり説明したりすることを通して，数の大きさや十進位取り記数法についての理解を深めるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。

指導時数・時期

12時間
2学期制：6月上旬～6月下旬
3学期制：6月上旬～6月下旬

評　　価

(知)　・一億までの数の仕組み，よみ方，かき方が理解できる。
　　・数の仕組みに着目して，一億までの数をよんだりかいたりできる。
(思)　・一万の位までの位取りと同じ仕組みで一億の位までの仕組みを説明できる。
　　・万の位までの数の相対的な見方に基づく加減計算の仕方を考える。
(態)　・一億までの数の仕組みについて関心を持ち，位取り記数法のよさがわかる。

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	135	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「1000をこえる数」	
(課題設定) ①万の位	1	58 59～60	○生活場面(マラソン大会)から，一万をこえる大きな数について調べていくという単元の課題をつかむ。 ○一万をこえる大きな数について，よみ方，かき方，仕組みを理解する。	・一万をこえる場面による大きな数の学習の動機づけ ・一万の位までの数のよみ方とかき方，数の加法的な見方《一万の位》	(態度)一万までの数についての知識をもとに，一万をこえる数について考えようとしている。《観察・発言》 (知技)一万の位までの数のよみ方やかき方を理解している。《観察・ノート》
	2	61	○千万の位までの数のよみ方，かき方について理解する。	・千万の位までの数のよみ方とかき方《十万の位，百万の位，千万の位》	(知技)千万の位までの数のよみ方やかき方を理解している。《観察・ノート》
	3	62	○数の仕組みについて理解を深め，一億という数について知る。 ○一万を単位とした数の相対的な見方を理解する。	・一億までの数の仕組み，相対的な見方 ・一億という数の意味　《一億》	(知技)数を10倍する見方で，一億という数の大きさをとらえることができる。《観察・発言》 (思判表)1万を単位にして，数の大きさを考えている。《観察・ノート》
	4	63	○一万までの数の仕組みをもとに，千万までの数の仕組みを考える。	・千万の位までの数の構成(数の加法的な見方)	(思判表)位取りに着目し，千万の位までの数の構成について考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	5	64	○一億までの数の大小比較ができる。	・一万の位までの数の大小比較《不等号》	(知技)一億までの数の大小関係を理解し，不等号を使って表すことができる。《ノート・発言》
	6	65	○万の位までの数について，数直線上に数を表したり，数直線上の数をよんだりできる。	・一億までの数の系列　《数直線》	(態度)1目盛りの大きさに注意して，数直線をよもうとしている。《発言・観察》 (知技)数直線上に数を表したり，よんだりすることができる。《ノート》

	7	66	○数の相対的な大きさの見方をもとに，万の位までの数の加法・減法ができる。	・1000 や 1 万を単位とした数の相対的な見方にもとづく計算	(思判表)数のまとまりに着目して，計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)1000 や 1 万を単位にして，加法や減法の計算ができる。《観察・ノート》
②10 倍した数，10 で割った数	8	67	○数を 10 倍することについて理解する。	・数を 10 倍することについての理解	(思判表)10 をかける計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)10 倍の計算ができる。《ノート》
	9	68～69	○数を 100 倍(10 の 10 倍)，1000 倍(100 の 10 倍)することについて理解する。	・数を 100 倍，1000 倍することについての理解 ・コラム「10 万という数」	(思判表)10 倍の計算の仕方をもとに，100 倍や 1000 倍の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)100 倍や 1000 倍の計算ができる。《ノート》
	10	70～71	○数を 10 でわることについて理解する。	・数を 10 でわることについての理解 ・コラム「身のまわりの一万をこえる数」	(思判表)10 でわる計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)10 でわる計算ができる。《ノート》
●練習	11	72	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	12	73	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

6　表とグラフ

目　　標	指導時数・時期
○　身のまわりの事象について，表や棒グラフを用いたデータの分類・整理の仕方を理解し，それをもとに事象の特徴を考察したり説明したりすることを通して，統計的に問題解決する素地を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。	9 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月上旬 3 学期制：6 月下旬～7 月上旬
評　　価	
(知)　・表やグラフをみて，資料のもつ意味が理解できる。また，資料を表やグラフに表すことができる。 (思)　・与えられた資料に対して，どのような表やグラフで表すのが適切であるかが判断できる。 (態)　・表やグラフに整理することにより資料がわかりやすくなることを知り，進んで使おうとする。	

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	136	○既習事項の理解を確かめる。	・2 年「ひょうとグラフ」	
(課題設定)	1	74	○好きな遊び調べの場面から，表やグラフを使って整理するという単元の課題をつかむ。 ○数を「正」の字で表し，簡単な表に整理することができる。	・好きな遊び調べによる表やグラフの動機づけ ・資料を分類・整理して表にまとめること（「正」の字にかいて調べること）	(態度)表やグラフを使うよさに気づき，わかりやすく表そうとしている。《観察・発言》 (知技)資料の数を正の字を使って数え，簡単な表に整理することができる。《観察・ノート》
①表づくり		75			
②ぼうグラフ	2	76～77	○棒グラフの意味を理解し，よむことができる。	・棒グラフの見方，よみ方 《ぼうグラフ》	(思判表)棒グラフの特徴について考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	3	78～79	○1 目盛りの大きさが 1 でない棒グラフをよむことができる。 ○横型の棒グラフを知り，よむことができる。	・1 目盛りの大きさが 2 や 5 の棒グラフ，横型の棒グラフの見方，よみ方	(思判表)棒グラフから，事柄の特徴を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
	4	80～81	○1 目盛りが 1 の棒グラフをかくことができる。	・棒グラフのかき方 (1 目盛りの大きさが 1)	(知技)表から棒グラフをつくることができる。《観察・ノート》
	5	82～83	○1 目盛りが 1 でない棒グラフのかき方を考え，正しくかくことができる。	・棒グラフのかき方 (1 目盛りの大きさが 10 や 100) ・身のまわりの棒グラフ探し	(思判表)資料にあわせて目盛りの大きさを考えて，棒グラフをつくっている。《観察・ノート》 (態度)身のまわりでどんな棒グラフが使われているかに関心を持ち，進んでみつけようとしている。《観察》
③くふうした表やぼうグラフ	6	84	○一次元の表を組み合わせた二次元の表の見方について理解する。	・簡単な二次元の表に整理すること	(知技)二次元の表について理解し，整理することができる。《観察・ノート》
	7	85	○複数の棒グラフを組み合わせたグラフをよむことができる。	・2 つの棒グラフを組み合わせたグラフのよみ方	(知技)工夫された棒グラフから，情報を適切に読み取ることができる。《発言・観察》 (思判表)工夫された 2 つの棒グラフについて，それぞれのよさに気づいている。《発言・観察》

④ぼうグラフを使って	8	86～87	○目盛りの付け方が違う 2 つのグラフを比較する活動を通して，目的にあった目盛りの付け方について考えることができる。	・棒グラフの目盛りの工夫，1 目盛りの幅が異なる棒グラフの考察	(態度)わかりやすく表すための工夫の仕方を考えようとしている。《発言・観察》 (思判表)2 つの棒グラフの目盛りの幅の違いに気づき，事柄の特徴を考えたり説明したりしている。《発言・観察》
学びのまとめ	9	88～89	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

7　たし算とひき算

目　標	指導時数・時期
○　(2 位数)±(2 位数)の計算について，繰り上がりや繰り下がりに着目して計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して，暗算で計算できるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	4 時間 2 学期制：7 月上旬 3 学期制：7 月上旬～7 月中旬
評　価	
(知)　・(2 位数)±(2 位数)や 100－(2 位数)の暗算の仕方が理解でき，その計算の答えを暗算で求めることができる。 (思)　・暗算の仕方を考えたり，説明したりすることができる。 (態)　・暗算のよさがわかり，日常生活の中で進んで暗算を活用しようとする。	

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
	1・2	90	○繰り上がりの有無を意識して，(2 位数)＋(2 位数)の暗算ができる。	・(2 位数)＋(2 位数)で答えが 2 位数になる暗算 ・(2 位数)＋(2 位数)で答えが 3 位数になる暗算	(態度)(2 位数)＋(2 位数)の暗算の仕方を身につけて活用しようとしている。《観察》 (思判表)繰り上がりに注意しながら暗算の仕方を考えている。《発言・観察》 (知技)(2 位数)＋(2 位数)の暗算ができる。《ノート》
	3・4	91	○繰り下がりの有無を意識して，(2 位数)－(2 位数)の暗算ができる。	・(2 位数)－(2 位数)の暗算 ・100－(2 位数)の暗算	(態度)(2 位数)－(2 位数)の暗算の仕方を身につけて活用しようとしている。《観察》 (思判表)繰り下がりに注意しながら暗算の仕方を考えている。《発言・観察》 (知技)(2 位数)－(2 位数)の暗算ができる。《ノート》

活　わくわく算数ひろば

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
●どんな計算になるのかな	1	92～93	○根拠にもとづいて，かけ算やわり算の演算決定をすることができる。	・乗除の演算決定	(思判表)演算決定の根拠を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
●算数の自由研究	2	94～95	○「迷路づくり」といった自由研究に取り組み，見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。	・迷路づくり（始点と終点の対応や経路の理解）	(態度)迷路づくりに意欲的に取り組み，いろいろな迷路をつくろうとしている。《観察・作品》 (思判表)見通しをもちながら，迷路の構成を考えている。《観察》

＊　ふく習

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	96～97	○既習事項の確認と持続	・復習	

8　長さ

目　標	指導時数・時期
○　長さについて，巻尺の使い方や km の単位を理解し，測定する活動を通して長さの測定や計算，単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに，量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。	5 時間 2 学期制：7 月中旬～7 月下旬 3 学期制：9 月上旬
評　価	
(知)　・長さの単位「km」について知る。巻尺の仕組みや使い方がわかる。 (思)　・長さの単位に着目し，長さの計算の仕方を考えることができる。 (態)　・計器のよさに関心をもち，身のまわりの長さを測定しようとする。	

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	―	136	○既習事項の理解を確かめる。	・2 年「長さ」「100cm をこえる長さ」	
(課題設定)	1	98	○長さを測る計器について調べ，長	・長さを測る計器について調べるこ	(態度)いろいろな計器や長さに興味

		99	いものの長さの測り方や表し方を調べるという単元の課題をつかむ。 ○長さの見当づけを行い，巻尺を使ってはかる。	とによる学習の動機づけ ・巻尺を使った測定	をもち，長さについて意欲的に調べようとしている。《観察》 (知技)巻尺を使った測定ができる。《観察》
	2	100	○長さの単位 km について知り，km を使って道のりなどの長さを表すことができる。	・長さの単位「km」の理解， 1km＝1000m 《km，キロメートル》	(知技)km が道のりなどを表すときに使われる単位であることを知り，1 km=1000 m であることを理解している。《観察》
	3	101	○長さの加減計算や問題づくりをする。	・長さの加減計算	(思判表)単位に着目して，長さの計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	4	102	○時間と関連づけて道のりの量感をつかみ，道のりを見当づけたり測定したりする。	・量感を活かした，身のまわりの長さの見積もりと測定	(態度)100m を歩くのにかかる時間やいろいろな道のりを調べることを通して，量感を意欲的に身につけようとしている。《観察》 (知技)適切に単位を選択することができる。《ノート》
学びのまとめ	5	103	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり	

9　あまりのあるわり算

目　　標	指導時数・時期
○　余りのあるわり算について，余りの意味やその計算の仕方を理解し，わる数と余りの大きさの関係をとらえたり，場面に応じて余りを処理したりできるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	8 時間 2 学期制：9 月上旬～9 月中旬 3 学期制：9 月中旬～9 月下旬
評　　価	
(知)　・余りのあるわり算の計算の仕方がわかり，その計算ができる。また，場面に応じて余りを的確に処理することができる。 (思)　・わり算の意味にもとづいて，余りのあるわり算の求め方を考えることができる。また，わる数と余りの大きさの関係をとらえることができる。 (態)　・余りのあるわり算の問題に進んで取り組もうとする。	

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	137	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「わり算」	
(課題設定)	1	104	○おかしを分ける場面から，余りのあるわり算について調べるという単元の課題をつかむ。 ○包含除で余りのあるわり算の意味を理解する。	・既習のふりかえりと余りのあるわり算の動機づけ ・余りのあるわり算（包含除）の意味と余りの表し方 《あまり，わり切れる，わり切れない》	(態度)既習のわり算をもとに，余りのあるわり算の答えの求め方を考えようとしている。《観察・発言》 (知技)余りのあるわり算の場面を式に表し，答えを求めることができる。《観察・ノート》
①あまりのあるわり算のしかた		105～106			
	2	107	○わり算の意味に着目し，余りはいつもわる数より小さくなることを理解する。	・除数と余りの大きさの関係， 余り＜除数	(思判表)わり算の意味にもとづいて，余りの大きさを考えたり説明したりしている。《発言・観察》 (知技)余りはいつもわる数より小さくなることを理解している。《発言・観察》
	3	108	○等分除で余りのあるわり算の意味を理解し，計算や適用題を解くことができる。	・等分除の場面で商と余りを求めること，余りのあるわり算の定着	(知技)余りのあるわり算の立式や計算ができる。《ノート》
	4	109	○わり算の操作や計算の仕方をもとに，余りのあるわり算の答えの確かめ方を理解する。	・余りのあるわり算の答えのたしかめ方 (除数)×(商)＋(余り)＝(被除数)	(態度) 余りのあるわり算の操作や計算をもとに，答えの確かめ方を考えようとしている。《観察》 (知技)余りのあるわり算の答えの確かめができる。《ノート》
●練習	5	110	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
②あまりを考えて	6	111	○問題場面にあわせて余りの処理の仕方を考え，余りを切り上げて処理することができる。	・余りを切り上げる問題の解決	(思判表)余りを切り上げて処理すればよいわけを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	7	112	○問題場面にあわせて余りの処理の仕方を考え，余りを切り捨てて処理することができる。	・余りを切り捨てる問題の解決， コラム「あまりの数を使って」	(思判表)余りを切り捨てて処理すればよいわけを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	8	113～115	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

10　重さ

目　　標	指導時数・時期
○　ものの重さについて，その比べ方や普遍単位の必要性を理解し，測定する活動を通して秤で重さをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに，量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。	8 時間 2 学期制：9 月中旬～10 月上旬 3 学期制：9 月下旬～10 月中旬
評　　価	

(知) ・重さの単位とその相互の関係を理解し，重さを適切な秤ではかることができる。 ・重さの加減計算ができる。 (思) ・長さやかさと同様に，重さの数値化の方法を考えることができる。 ・単位の関係を統合的に考察することができる。 (態) ・秤を使うことによって物の重さが正確にはかれることを知り，いろいろなものの重さを単位や計器を選んで適切にはかろうとする。	

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	137	○既習事項の理解を確かめる。	・2 年「100 をこえる数」	
(課題設定) ①重さの表し方	1	116 117	○直接比較による導入で，重さについて調べるという単元の課題をつかむ。 ○任意単位(1 円玉)による測定を通して重さの単位 g について知り，g を使って重さを表すことができる。	・天秤で重さを直接比較することによるの学習の動機づけ ・任意単位（1 円玉）による測定，重さの単位 g を使った重さの表し方 《g，グラム》	(態度)長さやかさの学習とつなげて，重さの比べ方や表し方について調べていこうとしている。《観察・発言》 (知技)g 単位で重さを表すことができる。《ノート》
	2	118～119	○秤を使って重さの測定ができる。	・秤による測定，秤の使い方	(態度)秤の使い方に関心をもち，重さのはかり方を意欲的に身につけようとしている。《観察》 (知技)秤の目盛りを正しくよみ，重さをはかることができる。《発言・観察》
	3	120～121	○重さの単位 kg について知り，kg を使って重さを表すことができる。	・kg の意味と 1kg をこえる測定，1k＝1000g 《kg，キログラム》	(知技)1kg をこえる重さをはかったり表したりすることができる。《観察・ノート》
	4	122	○1kg の重さをつくったり身のまわりから見つけたりして，1kg の量感を身につけることができる。	・1kg の重さづくり（量感），1kg の重ささがし	(態度)1kg の重さづくりを通して，量感を意欲的に身につけようとしている。《観察》
	5	123	○1kg の量感をもとにして，身のまわりのものの重さを見当づけ，適切に秤を選択して測定することができる。	・身のまわりのものの重さの見当づけ，秤の選択と測定	(思判表)1kg の量感をもとに，身のまわりのものがどのくらいの重さかを判断している。《観察・ノート》 (知技)用途に応じた秤が作られていることを理解し，適切に秤を選択して重さを測定することができる。《観察・ノート》
	6	124～125	○簡単な場合の重さのたし算やひき算の計算ができる。	・重さの加減計算 ・コラム「子犬の重さは？」「かわらない重さ」「重いのはだれ？」	(思判表)単位に着目して，重さの計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)簡単な場合の重さの計算ができる。《ノート》
②たんいの関係	7	126～127	○重さの単位 t について知り，t を使って重さを表すことができる。 ○長さ，かさ，重さの単位の関係を整理し，m(ミリ)と k(キロ)の意味を理解することができる。	・t の意味，1t＝1000kg ・いろいろな量の単位の関係をまとめること 《t，トン》	(知技)t がとても重い重さを表すときに使われる単位であることを知り，1 t=1000 kg であることを理解している。《観察》 (思判表)単位の関係について，何倍になっているかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	8	128～129	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題 ・コラム「体重はかわるかな？」	

＊　ふく習					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	130～132	○既習事項の確認と持続	・復習	

★　学びのサポート		
ページ	学習内容	指導時数
134～137	・じゅんび	
138～147	・もっと練習	
148～157	・算数しりょう集	

※巻末にある「学びのサポート」は少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

11　円と球

目　　標	指導時数・時期
○　円や球について，コンパスを使って円を作図する活動や観察によって球を分類する活動を通して，円や球について理解するとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	8時間 2学期制(10月中旬～10月下旬) 3学期制(10月中旬～10月下旬)
評　　価	
(知)・円や球，およびそれらの中心，半径，直径の意味を理解でき，コンパスを使って円をかいたり，長さを比較したりできる。 (思)・「まるい形」という感覚を，円，球という数学的な概念に深めることができる。 (態)・身のまわりにあるまるいものに関心をもち，共通の性質を理解しようとする。	

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	―	116	○既習事項の理解を確かめる。	・1年「いろいろなかたち」 ・2年「長さ」	
(課題設定)	1	2～3	○吹きこまを回したときの点の軌跡の観察を通して，まるい形について調べていくという単元の課題をつかむ。	・吹きこまを回す活動による円の学習の動機づけ	(態度)点の軌跡がどのような形になるかに着目して，吹きこまの回る様子を観察している。《観察》
	2	4～5	○円のかき方とコンパスの使い方，および円の中心，半径について理解する。	・円の定義，円の作図 ・コンパスの使い方 《円，中心，半径》	(知技)コンパスを使って円をかくことができる。《観察・ノート》 (知技)円について知り，中心や半径の意味を理解している。《発言・観察》
	3	6	○半径を決めて円をかくことができる。 ○1つの円では，半径をどこにとってもすべて長さが等しいこと，半径の長さによって円の大きさが決まることを理解する。	・半径を決めて円を作図すること ・円の半径の性質	(知技)半径を決めて円を作図することができる。《観察・ノート》 (思判表)1つの円では，半径はすべて等しい長さであることから，半径の長さによって円の大きさが決まることに気づいている。《観察・発言》
	4	7	○直径および直径と半径の関係を理解する。	・直径の定義，円形の紙を折ることによる円の中心の見つけ方 《直径》	(知技)円の直径について知り，直径が半径の2倍であることを理解している。《観察・発言》 (思判表)円の直径が中心を通ることに着目して，円形の紙を折って中心を見つける方法を考えたり説明したりしている。《観察・発言》
	5	8	○模様を観察し，模様のつくり方を考えることができる。 ○模様づくりを通して，コンパスの使い方と円のかき方に習熟する。	・コンパスを使った模様づくり	(思判表)模様から円の形を見いだし，中心の位置や半径の長さを判断して作図している。《観察・ノート》
	6	9	○長さを写し取る道具（ディバイダー）としてのコンパスの使い方を理解する。	・コンパスを使った長さの写し取り	(態度)コンパスを使うと長さを写し取れることに気づき，活用しようとしている。《観察・発言》
	7	10～11	○身のまわりのまるい形をしたものを分類し，球とその性質について理解する。	・球の定義とその性質，球の中心・半径・直径 ・身のまわりの円や球 《球》	(態度)いろいろな向きから観察して，形の特徴をとらえようとしている。《観察》 (知技)球について知り，球の中心・半径・直径の意味を理解している。《発言・観察》
学びのまとめ	8	12～13	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題 ・コラム「円と正方形」	

12　何倍でしょう

目　　標	指導時数・時期
○　数量の倍関係について，割合の3つの用法の問題を解決したり，オペレータ（変量）に着目して何倍になるかを考えたりすることを通して，乗除の適用場面や数量の関係について理解を深めるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	4時間 2学期制：10月下旬～11月上旬 3学期制：10月下旬～11月上旬
評　　価	
(知)・数量の倍関係を図に表すことができる。 ・a倍のb倍が（a×b）倍になることが理解できる。 (思)・問題文から数量の倍関係をよみとり，図に表して問題を解くことができる。 ・オペレータ（変量）に着目し，何倍になるかを考えて問題を解くことができる。 (態)・図やことばの式を使って意欲的に問題を解決しようとする。	

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
①何倍でしょう	1	14～15	○関係図に表して数量の倍関係をとらえる。 ○わり算を適用して，何倍かを求めることができる。	・何倍かを求める計算（a×□＝b）	(知技)数量の関係を図に表すことができる。《観察・ノート》 (知技)何倍かを求めるには，わり算を適用すればよいことを理解している。《発言・ノート》

	2	16～17	○関係図に表して数量の倍関係をとらえる。 ○何倍かの関係にある 2 量のうちの一方がわからない場面で，その量を求めることができる。	・もとにする量を求める計算，くらべる量を求める計算 （□×a＝b，a×b＝□）	(態度)数量の関係を図に表して考えようとしている。《観察・ノート》 (思判表)乗法や除法の逆思考の問題を解くのに，図を使って考えたり説明したりしている。《発言・観察》
②何倍になるかを考えて	3	18	○a×b×c の場面で，順に考えて解く方法と，何倍になるかに着目してまとめて考えて解く方法の 2 通りの考え方があることがわかる。	・a×b×c の場面で，順に考えたりまとめて考えたりして解くこと	(思判表)「a の b 倍の c 倍」という数量の関係を図に表すことを通して，「a の(b×c)倍」という関係に気づいている。《発言・ノート》
	4	19	○a×b×c の場面で，何倍になるかに着目してまとめて考える方法で解くことができる。	・a×b×c の場面で，まとめて考えて解くこと	(思判表)オペレータに着目し，「a の b 倍の c 倍」を「a の(b×c)倍」として考えている。《発言・ノート》

13　計算のじゅんじょ

目　標	指導時数・時期
○　計算の順序について，乗法では結合法則が成り立つことを理解し，3 要素 2 段階の問題を 1 つの式に表して計算できるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	1 時間 2 学期制：11 月上旬 3 学期制：11 月上旬
評　価	
(知)　・乗法の結合法則について理解し，計算できる。 (思)　・乗法の順思考を組み合わせた 3 要素 2 段階の問題を，1 つの式に表す考え方を説明できる。 (態)　・乗法の結合法則を問題解決の場で活用しようとする。	

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
	1	20～21	○数量の関係に着目し，乗法の結合法則が成り立つことを理解するとともに，これを用いて計算することができる。	・(　) を使った乗法の式の表し方 ・乗法の結合法則 a×b×c＝a×(b×c)	(態度)式の表し方に関心をもち，意欲的にそれを身につけようとしている。《観察》 (知技)乗法では結合法則が成り立つことを理解し，活用することができる。《観察・ノート》 (思判表)(　)を使って式に表すよさに気づいている。《観察・発言》

14　1 けたをかけるかけ算の筆算

目　標	指導時数・時期
○　1 けたをかけるかけ算の筆算について，その仕方を考えたり説明したりすることを通して，(2,3 位数)×(1 位数)の計算の筆算や簡単な(2 位数)×(1 位数)の計算の暗算ができるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	12 時間 2 学期制：11 月上旬～11 月下旬 3 学期制：11 月上旬～11 月下旬
評　価	
(知)　・(2,3 位数)×(1 位数)の計算の仕方を理解し，(2,3 位数)×(1 位数)の計算を筆算や暗算でできる。 (思)　・(何十・何百)×(1 位数)の計算の仕方を，10 や 100 を単位として考えることができる。 ・(2,3 位数)×(1 位数)の計算の仕方を，数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができる。 (態)　・(2,3 位数)×(1 位数)の計算方法を考えようとする。筆算や暗算のよさに気づく。	

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	117	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「九九の表とかけ算」	
(課題設定) ①何十・何百のかけ算	1	22 23	○(何十・何百)×(1 位数)の立式をして，計算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(何十・何百)×(1 位数)を，10 や 100 を単位にして九九の計算に帰着させて計算することができる。	・(何十・何百)×(1 位数)の立式，その計算の動機づけ ・(何十・何百) ×(1 位数)の計算の仕方	(思判表)10 や 100 を単位として，(何十・何百)×(1 位数)の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技) (何十・何百) ×(1 位数)の計算ができる。《ノート》
②(2 けた)×(1 けた)の筆算	2	24	○(十何)×(1 位数)を，(十)×(1 位数)と(何)×(1 位数)にわけて計算することができる。	・(十何)×(1 位数)の立式と計算の仕方	(思判表)12×4 の計算の仕方を考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	3	25	○繰り上がりのない(2 位数)×(1 位数)を筆算で計算することができる。	・12×4 や 20×4 のような繰り上がりのない(2 位数)×(1 位数)の筆算	(知技)繰り上がりのない(2 位数)×(1 位数)の筆算の仕方を理解し，筆算で計算することができる。《ノート》
	4	26	○十の位に繰り上がる(2 位数)×(1 位数)を筆算で計算することができる。	・24×3 のような十の位に繰り上がる(2 位数)×(1 位数)の筆算	(知技)十の位に繰り上がる(2 位数)×(1 位数)の筆算の仕方を理解し，筆算で計算することができる。《ノート》
	5	27	○百の位に繰り上がる(2 位数)×(1 位数)を筆算で計算することができる。	・32×4 のような百の位に繰り上がる(2 位数)×(1 位数)の筆算	(知技)百の位に繰り上がる(2 位数)×(1 位数)の筆算の仕方を理解し，筆算で計算することができる。《ノート》

	6	28	○繰り上がりが2回の(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。	・43×6 のような十の位にも百の位にも繰り上がる(2 位数)×(1 位数)の筆算	(思判表)十の位にも百の位にも繰り上がる(2 位数)×(1 位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
●練習	7	29	○学習内容を確実に身につける。	・(2 位数)×(1 位数)の筆算の練習，適用題	
③(3 けた)×(1 けた)の筆算	8	30	○(2 位数)×(1 位数)の筆算の仕方をもとに，(3 位数)×(1 位数)の筆算の仕方を考え，計算することができる。	・212×3 のような繰り上がりのない(3 位数)×(1 位数)の筆算	(態度) (2 位数)×(1 位数)の筆算の仕方をもとに，(3 位数)×(1 位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《観察》
	9	31	○既習の筆算の仕方をもとに，繰り上がりや空位のある(3 位数)×(1 位数)の筆算の仕方を考え，計算することができる。	・387×4 や 406×7 のような繰り上がりや空位のある(3 位数)×(1 位数)の筆算	(思判表)既習の筆算の仕方をもとに，繰り上がりや空位のある(3 位数)×(1 位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
●練習	10	32	○学習内容を確実に身につける。	・(3 位数)×(1 位数)の筆算の練習，適用題	
④暗算	11	33	○積の見当づけを生かして，簡単な(２位数)×(１位数)を暗算で計算することができる。	・簡単な(2 位数)×(1 位数)の暗算	(態度)簡単な(2 位数)×(1 位数)の暗算の仕方を身につけて活用しようとしている。《観察》 (知技)簡単な(2 位数)×(1 位数)を暗算で計算できる。《ノート》
学びのまとめ	12	34～35	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

15　式と計算

目　　標	指導時数・時期
○　加減と乗法の混じった式について，その計算の仕方を考えたり説明したりすることを通して，分配法則について理解するとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。	2 時間 2 学期制：11 月下旬 3 学期制：11 月下旬

評　　価

(知) ・加減と乗法を組み合わせた 4 要素の問題の場面で，1 組にまとめる考え方について知る。
・分配法則の意味と計算の順序を理解し，それにしたがって計算することができる。

(思) ・加減と乗法を組み合わせた 4 要素の問題の場面で，別々に求める考え方と 1 組にまとめる考え方の 2 通りで解くことができる。
・分配法則を用いた式の表し方について説明することができる。

(態) ・分配法則に関心をもち，進んで活用しようとする。

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
	1	36～37	○a×c±b×c の場面で，別々に考えて解く方法とまとまりを考えて解く方法の 2 通りの考え方があることがわかる。	・a×c±b×c の場面で，別々に考えたりまとまりを考えたりして解く問題	(思判表)順に考えたり，まとめて考えたりしている。《発言・ノート》 (知技)2 通りの考え方を理解している。《観察・ノート》
	2	38～39	○具体的な場面に照らし合わせて考え，分配法則のきまりについて理解したり，式に表したりすることができる。	・(　) を使った加法と乗法が混じった式の表し方 ・分配法則 a×c＋b×c＝(a＋b)×c	(態度)式の表し方に関心をもち，意欲的にそれを身につけようとしている。《観察》 (思判表)(　)を使って式に表すよさに気づいている。《観察・発言》

16　分　数

目　　標	指導時数・時期
○　分数について，その意味や表し方を理解し，数直線に分数を表して大小，たし算やひき算について考えたり説明したりすることを通して，分数についての理解を深めるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	10 時間 2 学期制：11 月下旬～12 月中旬 3 学期制：11 月下旬～12 月中旬

評　　価

(知) ・分数の表記，数としての分数，連続量としての分数などの意味が理解できる。
・分数の大小の判断や，同分母分数の加減計算をすることができる。

(思) ・単位分数の何個分という考え方をもとに分数の大きさの表し方を考えることができる。
・同分母分数の加減計算の仕方について考え，説明することができる。

(態) ・端数部分などを表すのに分数を用いることに関心をもち，よさに気づいて進んで生活や学習に活用しようとする。

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	117	○既習事項の理解を確かめる。	・2 年「分数」	
(課題設定)	1	40	○1m を単位にして測ったときの余りの長さの表し方を考えることを通して，単元の課題をつかむ。 ○単位分数を用いた量の表し方を理解する。	・端数部分の長さの表し方による分数の学習の動機づけ ・等分による「1 m の 1/a」という表し方	(態度)1m を基準にして，端数部分の長さの表し方を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)1m を基準として，量の大きさを単位分数で表すことができる。《ノート》
①あまりの大きさの表し方		41			

	2	42	○何等分かしたときの 1 つ分の長さを単位分数で表すことを知り，単位分数のいくつ分という分数の意味を理解する。	・分数による量の表し方 《1/3m，2/3m，分数，分子，分母》	(知技)分数の意味を理解し，1m に満たない長さを分数で表すことができる。《観察・ノート》
	3	43	○かさ(液量)についても分数で表せることを知り，分数の意味への理解を深める。	・色々な量の分数表記 《1/10L》	(思判表)長さを分数で表したことをもとに，10 等分した何個分かのかさの表し方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》 (知技)いろいろな量を分数で表すことができる。《ノート》
②分数の大きさ	4	44	○分数を抽象数としてとらえ，単位分数および 1 との関係について考える。	・数としての分数の意味，1 に等しい分数，単位分数の何個分という見方	(思判表)量を分数で表したことをもとに，分数を数としてとらえて表し方を考えたり説明したりしている。《観察・発言》 (知技)分母と分子が等しいとき，その大きさは 1 であることを理解している。《発言・ノート》
	5	45	○1 より小さい目盛りのある数直線があることを知り，その数直線上の点を分数で表すことができる。	・数直線上の分数	(思判表)数直線の 1 までの目盛りの数と分母との関係に気づいている。《発言・観察》 (知技)数直線上の点を分数で表すことができる。《発言・ノート》
	6	46	○分数の大小や相等の関係を理解することができる。	・分数の大小比較と等号・不等号を使った表現，コラム「分母の違う分数の大きさくらべ」 《等号》	(知技)同分母分数の大小関係を理解し，等号・不等号を使って表すことができる。《発言・ノート》
③分数のたし算・ひき算	7	47	○同分母分数のたし算の仕方を考え，計算することができる。	・同分母分数のたし算の計算の仕方	(思判表)単位分数の何個分という見方を働かせ，同分母分数のたし算を整数のたし算に帰着させて考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)同分母分数のたし算ができる。《ノート》
	8	48	○同分母分数のひき算の仕方を考え，計算することができる。	・同分母分数のひき算の計算の仕方	(態度)たし算の計算の仕方をもとに，同分母分数のひき算の仕方を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)同分母分数のひき算ができる。《ノート》
●練習	9	49	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	10	50～51	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題 ・コラム「分数の意味と表し方」	

活　わくわく算数ひろば					
小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
思 間の数	1	52	○1 列に並んだものの数と順序との関係を，図を使って考えることができる。	・順序数と集合数の問題	(思判表)並んだ数と順序の関係を簡潔な図に表すよさに気づき，それをもとに考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	2	53	○1 列に並んだものの数とその間隔との関係を，図を使って考えることができる。	・植木算の問題	(思判表)並んだ数とその間隔の関係を簡潔な図に表すよさに気づき，それをもとに考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
●算数ラボ	3	54～55	○オリンピックマークづくりを通して，身のまわりのものを数学的にとらえてみることのおもしろさを知る。	・円の作図を活用してオリンピックのマークを作る活動	(態度)数学的な見方・考え方を働かせて，どのような形かを観察しようとしている。《観察・発言》 (知技)観察してわかったことをもとに，実際にその形をつくることができる。《観察・ノート》

＊　ふく習					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	56～57	○既習事項の確認と持続	・復習	

17　三角形	
目　　標	指導時数・時期
○　二等辺三角形や正三角形について，構成を通してその分類や意味を理解し，作図の方法や角の大きさを考えたり調べたりすることを通して，平面図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	8 時間 2 学期制：1 月中旬～1 月下旬 3 学期制：1 月中旬～1 月下旬

評　価					
(知) ・二等辺三角形，正三角形の定義や性質を理解し，コンパスを使って，二等辺三角形，正三角形をかくことができる。 (思) ・辺の長さによって三角形を分類できる。 ・定義をもとに，二等辺三角形や正三角形について説明できる。 (態) ・身のまわりから三角形をさがし，それを分類しようとする。					
小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	118	○既習事項の理解を確かめる。	・2年「三角形と四角形」 ・3年「円と球」	
(課題設定) ①二等辺三角形と正三角形	1	58 59～60	○色棒でいろいろな三角形を作ることを通して，単元の課題をつかむ。 ○辺の長さに着目して，二等辺三角形や正三角形を弁別することができる。	・付録の色棒を使った三角形づくりによる学習の動機づけ ・三角形の分類，二等辺三角形・正三角形の定義 《二等辺三角形，正三角形》	(態度)辺の長さに着目して，三角形を分類しようとしている。《観察・発言》 (知技)二等辺三角形と正三角形について知り，弁別することができる。《発言・ノート》
	2	61	○二等辺三角形と正三角形を作図し，二等辺三角形や正三角形について理解を深める。	・コンパスを使った二等辺三角形や正三角形の作図	(思判表)辺の長さが等しいことに着目して，作図の仕方を考えている。《発言・観察》 (知技)二等辺三角形と正三角形を作図することができる。《観察・ノート》
	3	62	○円の半径の性質を利用すると，二等辺三角形や正三角形をかくことができることを理解する。	・円を使った二等辺三角形・正三角形づくり	(思判表)円の半径の性質をもとに，二等辺三角形や正三角形になるわけを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	4	63	○色紙を使って二等辺三角形や正三角形をつくる方法を考える。 ○身のまわりから二等辺三角形や正三角形の形をしたものを見つける。	・色紙を使った二等辺三角形・正三角形づくり ・身のまわりの二等辺三角形・正三角形さがし	(知技)色紙で二等辺三角形や正三角形をつくることができる。《観察》 (態度)折り方に関心をもち，二等辺三角形や正三角形ができるわけを考えようとしている。《観察・発言》
②角	5	64～65	○角について知り，二等辺三角形や正三角形の角の大きさについての性質を理解する。	・角の定義 ・二等辺三角形・正三角形の角についての性質	(知技)角について知り，角を重ねる操作を通して，二等辺三角形では2つの角の大きさが等しいこと，正三角形ではすべての角の大きさが等しいことを理解している。《観察・発言》
	6	66	○三角定規の角を調べる活動を通して，角の大きさが辺の長さには関係ないことを理解する。	・三角定規の角の大きさ比べ，三角定規を組み合わせて三角形を構成すること	(知技)大きさの等しい角を見つけることができる。《観察・発言》 (知技)角の大きさが辺の長さによらないことを理解している。《観察・発言》
	7	67	○正三角形や二等辺三角形は平面に敷き詰めることができることを知る。 ○敷き詰め模様の中から，いろいろな形をみつけることができる。	・正三角形や二等辺三角形の敷き詰め	(知技)正三角形を敷き詰めて模様をつくることができる。《観察》 (態度)敷き詰めた正三角形そのものの他にも敷き詰めの単位となる形があることに気づき，見いだそうとしている。《発言・ノート》
学びのまとめ	8	68～69	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

18　小　数

目　標	指導時数・時期
○　小数について，その表し方や数の仕組みを考えたり説明したりすることを通して，小数の意味やよさを理解するとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	10時間 2学期制：1月下旬～2月中旬 3学期制：1月下旬～2月中旬

評　価
(知) ・小数の意味，表し方，大小関係を理解し，小数を用いて端数部分を表現したり，数直線上に小数を表したりすることができる。1/10の位までの小数の加減計算ができる。 (思) ・小数の相対的な見方を活用して，小数の加減計算の仕方を考えることができる。 (態) ・小数のよさに気づき，進んでこれを用いようとする。

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	118	○既習事項の理解を確かめる。	・3年「分数」	
(課題設定) ①あまりの大きさの表し方	1	70 71	○1L を単位にして測ったときの余りのかさの表し方を考えることを通して，単元の課題をつかむ。 ○小数について知り，小数を用いた量の表し方を理解する。	・端数部分のかさの表し方による小数の学習の動機づけ ・小数による量の表し方，小数と整数の意味 《0.1 L，小数，小数点，1/10 の位，整数》	(態度)1L の 1/10 を基準にして，端数部分のかさの表し方を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)小数について知り，小数を用いてかさを表すことができる。《発言・ノート》

	2	72～73	○長さについても小数で表せることを知り，小数の意味や表し方についての理解を深める。 ○身のまわりから小数を見つける。	・量の複名数表記と小数による単名数表記 ・身のまわりの小数さがし ・コラム「世界の小数の表し方」	(知技)小数を用いて，量を単名数で表したり複名数で表したりすることができる。《ノート・発言》 (態度)身のまわりでどのように小数が使われているかに関心をもち，意欲的に見つけようとしている。《観察》
②小数の大きさ	3	74～75	○小数の仕組みや構成，大小関係について理解する。	・小数の加法的な見方・相対的な見方 ・数直線上の小数，小数の大小比較	(思判表)小数を整数部分と小数部分にわけてとらえたり，0.1 を単位として大きさをとらえたりしている。《発言・ノート》 (知技)1 目盛りが 0.1 の数直線があることを知り，数直線上の点を小数で表すことができる。《発言・ノート》
	4	76	○小数と分数で大小を比較することができる。	・小数と分数の大小比較, 小数と分数の関係	(知技)小数と分数の大小比較ができる。《ノート》
③小数のたし算・ひき算	5	77	○小数のたし算の計算の仕方を考え，その計算ができる。	・小数のたし算の計算の仕方	(思判表)0.1 の何個分という見方を働かせ，小数のたし算を整数のたし算に帰着させて考えたり説明したりしている。《発言・ノート》 (知技)小数のたし算ができる。《ノート》
	6	78	○小数のひき算の計算の仕方を考え，その計算ができる。	・小数のひき算の計算の仕方	(態度)小数のたし算の仕方をもとに，小数のひき算の仕方を考えようとしている。《発言・観察》 (知技)小数のひき算ができる。《ノート》
	7	79	○小数の加減計算の仕方をもとに，その筆算も整数の筆算と同じようにできることを理解し，計算できる。	・(小数)±(小数)の筆算	(知技)小数の加減計算の筆算の仕方を理解している。《ノート》
	8	80	○(整数)±(小数)や(小数)±(小数)で空位のある筆算の仕方を理解し，計算できる。	・(整数)±(小数)の筆算，(小数)±(小数)で空位のある筆算	(思判表)位の違いや空位に注意して，筆算の仕方を考えたり説明したりしている。《ノート・発言》
●練習	9	81	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
学びのまとめ	10	82～83	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり，活用問題	

＊　ふく習

小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	84～85	○既習事項の確認と持続	・復習	

19　2 けたをかけるかけ算の筆算

目　　標	指導時数・時期
○　2 けたをかけるかけ算の筆算について，1 けたをかける場合の筆算をもとにその仕方を考えたり説明したりすることを通して，(2,3 位数)×(2 位数)の計算の筆算ができるようにするとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	6 時間 2 学期制：2 月中旬～2 月下旬 3 学期制：2 月中旬～2 月下旬
評　　価	
(知)　・(2,3 位数)×(2 位数)の筆算の意味（部分積をかく位置など）を理解し，それを筆算で計算できる。 (思)　・2 位数をかける筆算の仕方を，既知の計算（1 位数をかけるかけ算と何十をかけるかけ算）や分配法則をもとに考えることができる。 (態)　・色々な(2,3 位数)×(2 位数)の問題をつくり，筆算で計算しようとする。	

小単元	時	ページ	目　　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	119	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「1 けたをかけるかけ算の筆算」 ・3 年「たし算とひき算の筆算」	
(課題設定) ①何十をかけるかけ算	1	86 87	○既習の(2 位数)×(1 位数)の計算をもとに，2 位数をかける計算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 ○乗数の何十を 1 位数と 10 の積とみて，(2 位数)×(何十)の計算の仕方を考えることができる。	・既習のかけ算「×(1 位数)」による「×(2 位数)」の学習の動機づけ ・何十をかけるかけ算の計算の仕方	(思判表)何十を 1 位数と 10 の積とみて，何十をかける計算の仕方を考えたり説明したりしている。《観察・ノート》 (知技)(2 位数)×(何十)の計算ができる。《ノート》
②(2 けた)×(2 けた)の筆算	2	88	○(2 位数)×(2 位数)で部分積が 2 桁の筆算を計算することができる。	・(2 位数)×(2 位数)で部分積が 2 桁の筆算	(知技)(2 位数)×(2 位数)で部分積が 2 桁の筆算の仕方を理解し，筆算で計算することができる。《ノート》
	3	89	○既習の筆算の仕方をもとにして，(2 位数)×(2 位数)で部分積が 3 桁の筆算を計算することができる。	・(2 位数)×(2 位数)で部分積が 3 桁の筆算	(知技)(2 位数)×(2 位数)で部分積が 3 桁の筆算の仕方を理解し，筆算で計算することができる。《ノート》

●練習	4	90	○学習内容を確実に身につける。	・練習	
③(3 けた)×(2 けた)の筆算	5	91	○(2 位数)×(2 位数)の筆算の仕方をもとに，(3 位数)×(2 位数)の筆算の仕方を考え，計算することができる。	・(3 位数)×(2 位数)の筆算	(態度) (2 位数)×(2 位数)の筆算の仕方をもとに，(3 位数)×(2 位数)の筆算の仕方を考えようとしている。《観察》
学びのまとめ	6	92～93	○学習内容の理解を確認する。	・評価とふりかえり ・コラム「かけ算の筆算のくふう」	

20　□を使った式

目　標	指導時数・時期
○　数量を□として表すことについて，問題文のわからない数を□として式に表せることを理解し，□にあてはまる数の求め方を考えたり説明したりすることを通して，計算の相互関係や文と図と式の関連について理解を深めるとともに，生活や学習に活用しようとする態度を養う。	4 時間 2 学期制：2 月下旬～3 月上旬 3 学期制：2 月下旬～3 月上旬
評　価	
(知)　・□を使った式に表したり□にあてはまる数を求めたりすることができる。 (思)　・□を使って，問題文を図や式に表すことができる。 (態)　・ことばの式や□を使った式に関心をもち，進んで活用しようとしている。	

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
じゅんび	—	119	○既習事項の理解を確かめる。	・3 年「図を使って考えよう」	
(課題設定)	1	94 95	○わからない数を□として，式に表すことができる。 ○□の式に表すことを通して，単元の課題をつかむ。	・生活場面による□を使った式の動機づけ ・加法や減法の場面での，□を使った式の立式（□＋a，a－□）	(知技)わからない数を□として，□＋a，a－□のような式に表すことができる。《ノート》
	2	96	○加法・減法の場面で□を使って立式し，□にあてはまる数の求め方を考えることができる。	・加法や減法の場面での，□を使った式の立式と求答（□＋a=b，a－□=b）	(知技)わからない数を□として，□＋a=b，a－□=b のような式に表すことができる。《ノート》 (思判表)□にあてはまる数の求め方を，□に数をあてはめたり数量の関係を図に表したりして考えている。《ノート・発言》
	3	97	○乗法・除法の場面で□を使って立式し，□にあてはまる数の求め方を考えることができる。	・乗法や除法の場面での，□を使った式の立式と求答（□×a=b，a÷□=b）	(態度)加減の式での求め方をもとに，乗除の式の□にあてはまる数の求め方を考えようとしている。《ノート・発言》
	4	98～99	○算数の問題をつくり，その問題文にあう図や式を考えることができる。	・文章，図，式の相互理解	(思判表)場面や数量の関係に着目して，問題にあう図や式を考えている。《ノート・発言》

●　そろばん

目　標	指導時数・時期
○　そろばんについて，そろばんを用いた数の表し方を理解し，簡単な加減の計算を通して，そろばんの構造やよさに気づくとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。	2 時間 2 学期制：3 月上旬 3 学期制：3 月上旬
評　価	
(知)　・そろばんによる数の表し方や加法及び減法の計算の仕方を知り，そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができる。 (思)　・そろばんの構造をとらえ，簡単な加法及び減法の計算の仕方や，数の相対的な見方を用いた計算の仕方を考えることができる。 (態)　・そろばんを用いた加法および減法の計算に進んで取り組もうとする。	

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準
	1	100～101	○そろばんについて知り，そろばんにおかれた数のよみ方や数の入れ方とはらい方を理解する。 ○繰り上がりや繰り下がりのない加減で，5 だまの合成・分解の起こらない場合の計算をする。	・そろばんの構造，数の入れ方とはらい方 ・繰り上がりや繰り下がりのない場合で，5 だまの合成・分解の起こらない加減の計算 ・コラム「大きな数や小数の計算」	(態度)そろばんでの数の表し方に関心をもち，理解しようとしている。《観察》 (思判表)たまの操作で加減の計算ができるそろばんのよさに気づいている。《観察・発言》
	2	102～103	○5 だまの合成･分解の起こる場合の加減の計算をする。	・繰り上がりや繰り下がりのない場合で，5 だまの合成・分解の起こる加減の計算 ・繰り上がりや繰り下がりを伴う場合で，5 だまの合成・分解の起こる加減の計算	(知技)繰り上がりや繰り下がりのない場合で，5 だまの合成・分解の起こる加減の計算ができる。《観察》 (知技)繰り上がりや繰り下がりを伴う場合で，5 だまの合成・分解の起こる加減の計算ができる。《観察》

活　わくわく算数ひろば

小単元	時	ページ	目　標	学習内容	おもな評価規準

●買えますか？買えませんか？	1	104～105	○1 つ 100 円玉何枚で買えるか買えないかの判断をもとに，いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断することができる。	・見積もりの素地	(思判表) 1 つ 100 円玉何枚で買えるかを判断し，それを根拠に複数のものが何百円で買えるかどうかを考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
●みらいへのつばさ	2	106～107	○長文などの資料から必要な情報を選択し，時刻と時間についての問題を解決できる。	・長文などの読み取り，情報選択（たくやさんの1日の生活の計画メモ）	(知技)文章，図，表から問題を解くのに必要な情報を選択することができる。《発言・ノート》 (思判表)文章，図，表を関連づけて考えたり説明したりしている。《発言・ノート》
	3	108～109	○1 日の生活の課題を話しあい，課題解決に向けた計画を考える。	・1 日の生活の計画を立てる活動	(態度)算数で学んだことをいかして，自身の生活を見直そうとしている。《観察・ノート》

＊　もうすぐ 4 年生（3 年のふく習）					
小単元	時	ページ	目標	学習内容	おもな評価規準
	1	110～111	○3 年生の学習内容の確認と持続	・復習	
	2	112～113			
	3	114			

★　学びのサポート		
ページ	学習内容	指導時数
116～119	・じゅんび	
120～129	・もっと練習	
130～139	・算数しりょう集	

※巻末にある「学びのサポート」は，少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。